

「ささえる力 Power」は、情熱と誇りをもって働く「人」にスポットをあて水資源機構の仕事を紹介するコーナーです。

両立

～子供に伝えたいママの仕事～



機構で働く女性職員は66人、そのうちママとして仕事と育児を両立している職員は25人。その中から、本社と現場の間に立ち、中部管内をとりまとめている中部支社総務課で働きながら、小学校1年生と2歳の2人のお子さんを育てている川上さん取材しました。

ある日の川上さん

- 6:00 — 起床
朝食、弁当作り、保育園経由で通勤
- 8:45 — 出社
報道関連対応
社会保険などの手続き
給与・手当の入力
中部管内の総務関係報告書のとりまとめ等
- 16:15 — 退社（育児時間を1時間取得）
子供のお迎え経由で帰宅
夕食、お風呂、洗濯、寝かしつけ
- 24:00 — 就寝

本社と中部管内をつなぐ

中部管内には、木曽川水系に9つ、豊川水系に1つの事務所がある。支社の総務課は、報告書の作成、資料のとりまとめなどの管内事務所と本社との仲介、管内の記者発表や情報公開窓口、本社に代わり管内事務所に業務説明や指導等を行っている。

川上さんは、笑顔が素敵な関西出身の明るい女性。「私の主な仕事は、支社内の給与・雇用保険・福利厚

Profile

中部支社 総務部総務課

川上 みや子 Miyako Kawakami

平成7年水資源開発公団（現水資源機構）入社。日吉ダム（京都府）・愛知用水・豊川用水（愛知県）の用地課に勤務。平成18年に長男を出産し育児休暇を取得、平成21年に中部支社総務課に復職。平成23年に次男を出産し育児休暇を取得、平成25年5月より現職に復職。

生等に関わる仕事です。職員にとっては当たり前のことですから、みなさんにあまり意識されていない業務も少なくないかと。だからこそ、不便をかけることのないように努めています。」

出産前は、用地業務に従事していた川上さん。復帰後は総務課へ配属となった。「仕事の内容にこだわりはありませんね。むしろ、用地、経理、総務といろいろな職種を経験することで、知らなかったこと、見えていなかった仕事を知り、知識が広がっています！」とニコリ。



社内制度をフル活用して

仕事と育児の両立について尋ねると、「2人の子供を出産する際に、産前産後休暇や育児休業を取得することで、約5年間専業主婦をしました。子供とじっくり触れあえ、日々の成長を見守ることができて、充実していて楽しかったです。でも、仕事を辞める自分を想像できなかつたんです。仕事をしている時間は、母親とは違う別人格でいるような、違った充実感があるから。」

ご主人も育児には極力協力してくれるという。それでも、壁にぶつかり悩むこともある。「そんなとき夫は、『仕事を辞めるという選択肢はいつでもできる。まずはできることをやりつくして、どうしてもダメなときに考えればいい。やる前から考えないで。』っていつも言ってくれて。だから気負うことなく頑張っています。自分を取り巻く環境が許す範囲で働き続けられればいいかな。」

子育てにおける機構の制度はどうか。「私は機構の制度をフル活用させていただいていますよ。」とのこと。「産前産後休暇などの法定休暇以外にも、子供の看護のための休暇・育児時間の取得(小学生未満の子の養育)などの特別休暇を活用させてもらっています。何より最大3歳まで育児休業が認められているのがありがたかったです。」また、最近になって転勤制度も見直された。「入社時は全国転勤が基本でしたが、今は地域勤務制度(子の養育などの条件有)が導入されて、希望すれば異動範囲をある程度限定することができるようになりました。以前は異動先によっては『仕事を続けられなくなるのかな』っていつも心配だったのでホッとしました。」平成26年4月からはブロック勤務※も導入される。「機構の男性職員は単身赴任が少ないのが現状ですが、これからは家族と一緒に住みやすくなるのではないかと期待しています。男性にとっても、より働きやすい職場になるといいですね!」

※ブロック勤務:希望するブロックを中心に異動する勤務形態

みなさんの協力のおかげ

「本当は、もっと支社の職員として管内の現場に行って情報交換等をしたりするべきなのでしょうが、保育園の迎えもあり残業ができないので、その分他の職員の方に負担になっているかと思います。」と申し訳なさそうに続ける。「それに子供の突然の発熱など、保育園からの呼び出しも少なくありませんから。突然休まざるを得ないこともあり、職場のみなさんには迷惑をかけてしまうので、期限のある仕事



はできるだけ早めにやるようにしています。」それでも、時間に追われることも少なくない。「みなさんの協力に甘えすぎないように、限られた時間を効率よく使うように、常に心がけています。」仕事と育児の両立には、本人の努力も欠かせない。

「でも、会社に『働く女性を応援し配慮してくれる制度』があり、その制度を取得しやすい環境があり、そして何より職場のみなさんの協力と理解があるから、私は仕事を続けられていると思いますし、だからこそ迷惑をかけないよう頑張らなきゃと感じています。」と感謝でいっぱいの様子。

子供に知ってほしいママの仕事

週末は公園の砂場で、ダムと水路を作って放流して水を流して…機構職員ならではの(?)の遊びを親子で楽しむこともあるという。「ママの仕事は、生活に欠かすことのできない水を届ける大切な仕事。私たちが担っている大切な役割を、子供たちも知ってくれたらうれしいなと思って。」最近では、渇水や台風の報道を見ると「ママの会社出てるよ!」とお子さんから教えてくれることもあるとか。「小学4年生になると、水がどこから来るのか学校で勉強するので、そのときに『このダムや水路はママの働いている会社だよ!』って子供に自慢できたらいいな!」

力みすぎず、時には身を委ねながら、今日も前を向き元気に働く「みや子ママ」でした。



「『機構のロゴマーク』をお絵かきで書いたときはビックリしたな～。どこで覚えたのかな?」

いつか、子供たちと私の働いていたダム&水路を巡る旅に行けたらいいな(笑)」

